

「2つの仕業」 はなしばい Project

出演 松田実里

作 日野祥太

画面が点くと、

「わたし」がベランダにいる

ベランダからこちらにやってくる「わたし」

わたし

あ、今ぶりです
まず、そうだな、

あ、ちゃんと飾ってますよ、これ、
サンダーソニアってお花みたいですね、こんなあったかい時期に咲くのに、
別名「クリスマススベル」ですって、なんかわたしみたいじゃないですか。

あ、意味は察してください

じゃあ、今日はまず、
随分前の、わたしがまだ、小学生の頃の話をしますね

えっと、

わたしは、比較的活発な方でした、
走るのとか、男子と混じっても、引けを取らないくらい、

ああ、今日みたいな、天気の良い日は、
必ず、外で遊んでました、塾の日以外は、ですけど

そんなわたしは、みんなに内緒だった事があって、
出来るだけ、バレないようにバレないように、してた事が一つだけあって、

それは、かなりの、怖がりだったんですね、

実は、これは今もです
あ、内緒ですよ、

で、次は、少し前の話です、

あの、家にずっと籠っていないといけなかった、あの時、
お母さんに電話したんです

そしたら、「なんか用？ 今洗濯物してるから、後でいい？」って、
なにそれ、大丈夫、とかないの？って怒ったけど、

「あんたは怖がりだから大丈夫でしょ、どうせ人と会ってないくせに」って

知ってたんかい、って、さすが母だーって思ってたら、すぐ電話切られました。

なんか母の偉大さを、知った瞬間だったから、一緒のことしたいなって思って、大してなかった洗濯物を、干してたんです
そしたらです、

向かいのマンションで、
こっちに向かつて手を振ってる人がいたんです

怖っ、て思いました。

正直、

「むちゃくちゃ怖かったです、東京だーって、感じ、

でも、

その人が、花、

あ、この花です。

この花を掲げて、横の公園を指差して、

「そこに挿しとくから、持って行って下さい！」って。

その時は、なんだろう、

麻痺してたのかもしれないが、

不思議と、怖くなくなってる、

いや、怖かったですけど、…嬉しかったんです

それは多分、お母さんとの電話の時と一緒にね、

ムカつくけど、嬉しい、とか、

怖いけど、ワクワクする、みたいな、

2つの感情の仕業で、

わたしは生きてるんだなって、

だから、この花は、わたしみたいだなって、

でも、あれはなかったですよ、

ほんと、通報ものですからね、

でも、嬉しかった、ていう、話です、

はい！ じゃあ、次は、あなたの番です、

…どうぞ！

音楽が高鳴り、「わたし」は笑ったり、真剣に話を聞いたり、
画面に向かって、話している。

ゆっくり画面は黒く、もしくは、白くなっていく